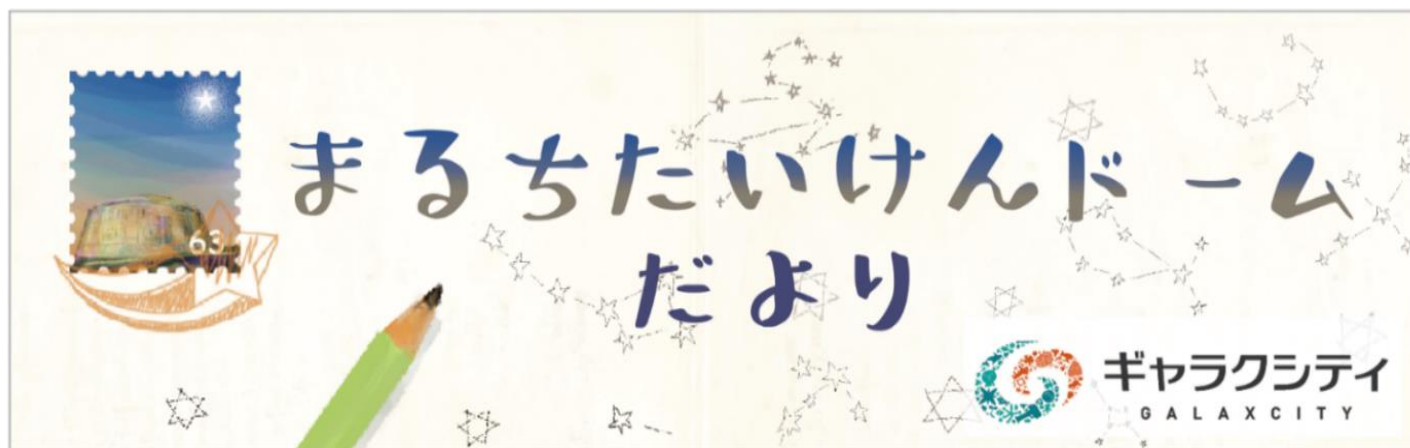




まるちたいけんドームとは

プラネタリウムに来られるお客様の中には、ギャラクシティの^{れきし}歴史と^{とうえい}投影システムに興味を持たれる方もいらっしゃいます。今日はそのあたりのお話をしましょう。

ギャラクシティは1994年3月に開館し、すでに27年の^{れきし}歴史を持っています。まるちたいけんドームは、^{しせつ}施設の中核としてプラネタリウム^{ごとうこうがく}投影機（五藤光学研究所製 GSS-Helios）とフィルム



プラネタリウムの空に現れた「アマビエくじら座」

（70mm15P）による^{おおがたいぞうえいしゃき}大型映像映写機（カナダアイマックス社製 Imax-Dome）を設置して運用を開始しました。プラネタリウムは、^{たけ}竹の塚にあった^{つか}足立区教育センターの^{でんとう}伝統を引き継いで、^{とうえい}小中学校の^{ようじ}学習投影や^{りよう}幼児向けの投影も行ってきました。今でも年間を通じて学習利用が行われています。

ドームの^{ちようけい}直径は23m、^{けいしゃかくど}傾斜角度27度と足元まで星空が広がって見えるいわゆる「^{うちゅうがた}宇宙型プラネタリウム」です。現在のシステム（^{げんざい}コニカミノルタプラネタリウム社製 Media Globe SE）は、宇宙のどこからでも、また^{いどう}移動しながらでも宇宙を見ることの出来る機能（スペースエンジンといいます）を備えています。170席の座席に加え、^{ねころ}寝転がって空を見ることの出来るスペース（これは全国でも^{めずら}珍しいものです）や車イスのスペースがあります。

プラネタリウムは映像番組だけではなく、今年度から「^{なまかいせつ}生解説」にも力を入れていく方針です。宇宙や科学、^{きせつ}季節の^{せいざ}星座、^{かんさつ}観測をおすすめする^{げんしょう}天文現象など、ホットな話題を提供いたします。このところコロナ禍で^か休演が続いていますが、^{きゆうえん}蘇るまるちたいけんドームにご期待ください。
(^{かいせつじん}解説員：^{たべいし}田部一志)